

ハインリッヒ・ハイネ大学の概要

デュッセルドルフのハインリッヒ・ハイネ大学(HHU)は1965年の創立以来、国際的且つ革新的な大学へと発展してきました。5つの主力学部（経営学・経済学、人文科学、法学、数学・自然科学および医学）を合わせて、1万7000人の学生、260人の教授、3000人の研究員および一般職員を抱える大学となっています。また大学病院は年間約20万人の入院および外来患者の治療にあたり、5700人の職員を雇用しています。大学が提供する魅力ある学習プログラムと抜群の研究環境は世界各国の学生や研究者を引きつけています。

ハインリッヒ・ハイネ大学は、デュッセルドルフ生まれの19世紀の有名な詩人、ハインリッヒ・ハイネ(1797年 -1856年)にちなんで名付けられました。ハインリッヒ・ハイネの理念に基づき、大学は文化的多元主義、人種および宗教の寛容さ、並びに男女同権を強く支持しています。

Web: www.hhu.de/home/en/



写真: Lisa Schäfer

デュッセルドルフ市

ハインリッヒ・ハイネ大学は、ヨーロッパの中心に位置し、活力溢れる町、デュッセルドルフに立地しています。デュッセルドルフには産業およびサービス関連の企業の国際ビジネス拠点が多数置かれています。国際空港など抜群の輸送インフラが整備されているため、各地にアクセスし易いという利点を持ちます。更に、デュッセルドルフはコミュニケーション、広告およびファッション産業の中心都市としても発展してきました。

世界に開かれた寛容の精神がデュッセルドルフの特徴です。活気溢れるアートやファッション、また幅広い教育や余暇活動により、デュッセルドルフはこの上なく魅力溢れる拠点となっています。特に、ヨーロッパ大陸で最大の日本人コミュニティは、町の文化と生活をより一層生き生きとしてくれています。更に、数多くの名所、ショッピング街、文化イベントが揃うデュッセルドルフは生活するのに最高の町となっています。

Web: www.hhu.de/home/en/living-in-duesseldorf



写真: Düsseldorf Marketing & Tourismus GmbH



写真: Düsseldorf Marketing & Tourismus GmbH

研究とイノベーション

ハインリッヒ・ハイネ大学は、ライフサイエンス、物理、化学、言語学、社会科学、法律および経済学などの優れた研究活動により、ドイツのみならず世界的にも有名になっています。また大学病院と医学部による臨床と研究の総合活動は、世界各国から高い評価を受けています。更に、ハインリッヒ・ハイネ大学は発明、特許、技術移転を推進する伝統を築きあげてきました。それ故、大学の研究を基に多数の優秀なスピンオフ企業が生まれています。またハインリッヒ・ハイネ大学はユーリッヒ研究センターと密接な協力関係を築いてきました。これに加え、ドイツ糖尿病医療センター (DDZ) およびライプニッツ環境医学研究所 (IUF) など、他の関連研究機関とも研究領域を相互補完し、協力関係を構築してきました。

Web: www.forschung.uni-duesseldorf.de/en



写真: UKD

学部および大学院の学習プログラム

ハインリッヒ・ハイネ大学は生物、ドイツ文学、歴史、法律および医学など人気の高い学科をはじめとして50の学科を揃えています。研究分野でも専門職分野であっても学生が資格習得できるように、実務経験と応用可能な技能を盛り込んだカリキュラムにしています。また学生は100以上の交換留学プログラムを通して、国外での学習および研究の経験を得る事ができます。

学生サービスセンター (SSC) は学生一人一人へのカウンセリング業務、就職紹介および学習指導を行っています。この他、多数の学生自治会による個別指導および学習グループも組織されています。また大学図書館は、開館時間を長くして、蔵書貸出やその他のサービスを週7日間行っています。

Web: www.hhu.de/home/en/studying-and-teaching



写真: Jörg Reich



写真: UKD

博士課程研究

ハインリッヒ・ハイネ大学の博士課程は、デュッセルドルフ大学院研究アカデミー (iGRAD) により組織されています。この大学院研究アカデミーは学際的および大学横断的組織であり、様々な学科の博士課程を統合し、全ての博士研究プロジェクトに対応する組織として機能しています。また、特殊教育に並び、応用技能の学際的トレーニングも提供しています。更に、産業界のトップパートナーとのネットワークの構築と促進を手がけ、博士課程の研究プロジェクトのサポートと指導を行っています。

iGRAD: www.hhu.de/iGRAD

国際協力

ハインリッヒ・ハイネ大学は国際化を重要視しています。それ故、130の国際協力プロジェクトに参加しながら、国際共同研究を支援し、知識交流を促進しています。またハインリッヒ・ハイネ大学は幅広い学習プログラムを提供していることから、外国の学生の間でも非常に高い人気を得ています。現在、世界100カ国を超える国から留学生がハインリッヒ・ハイネ大学で学んでいます。内訳はヨーロッパ諸国(48%)、アジア(32%)、アフリカ(15%)および南北アメリカ(5%)となっています。ハインリッヒ・ハイネ大学は特に欧州連合、日本、イスラエルおよびアメリカを重点地域・国として捉え、これまでに下記のようなパートナーシップを築き、実りある国際交流を行っています。

- 1973年: ナント大学 (フランス)
- 1985年: ナポリ大学 (イタリア)
- 1987年: 北京大学 (中国)
- 1987年: アリカンテ大学 (スペイン)
- 1990年: レディング大学 (イギリス)
- 1990年: カリフォルニア大学デービス校 (アメリカ)
- 1990年: ペンシルベニア州立大学 (アメリカ)
- 1998年: プラハ・カレル大学 (チェコ)
- 1999年: 慶応義塾大学 (日本)
- 2010年: 青山学院大学 (日本)
- 2011年: 同志社大学 (日本)

Web: www.hhu.de/home/en/international



写真: Hanne Horn

キャンパスライフ

ハインリッヒ・ハイネ大学のキャンパスライフでは勉学のみならず、ソーシャルイベントやレジャー活動も活発に行われています。総合学生委員会 (AStA) は人々が集う場としてスポーツおよび余暇の各種プログラムを実施しています。また、日本、スイス、ドイツなどの有名なコンサートホールでの演奏実績を持つハインリッヒ・ハイネ大学のオーケストラ、あるいは大学の合唱団が行うリハーサルも学生および教職員の集いの場となっています。この他、学生自治会はバーベキュー大会、学園祭、映画祭を実施しています。

更に、キャンパスにはデュッセルドルフ市の「グリーンベルト」の一部となっている植物園があり、仲間同士が集まって、憩いの場となっています。またキャンパス内あるいは近くに近代的な学生寮が整備されているため、学生は勉学の後も連絡を取り合い交流を深めています。デュッセルドルフでは人気スポットは全て数分でアクセスできる近場にあります。

Web: www.hhu.de/hochschulsport/
www.hhu.de/orchester/CMS/
www.unichor.hhu.de



写真: Jörg Reich

国際サービス

新しい町あるいは国に移り住むにはしっかりとした計画作りの他にも、処理すべき事案が沢山あります。その為、国際ウェルカムセンターは、デュッセルドルフに移住してきた研究者が生活し、仕事を始められるよう、銀行口座開設、アパート探し、あるいは当局への届け出や登録のサポートをしています。

これに加え、ハインリッヒ・ハイネ大学の国際学生オリエンテーションサービス (iSOS) は外国留学生のためのサポート、また外国留学生によるサポートを提供しています。具体的には、アパート探し、査証規定に関する質問相談、あるいは関連当局への付添いなどです。更に、大学はキャンパスツアーを含むオリエンテーション・ウィークを実施しており、留学生に関連組織や担当者を紹介しています。

Web: www.hhu.de/home/en/international



進化生物学およびゲノム研究

ハインリッヒ・ハイネ大学植物学第三研究所は、日本の研究者と分子進化およびゲノムの共同研究を長年行っています。

2009年、ウィリアム・マーチン教授（デュッセルドルフ）、小平桂一教授（日本学術振興会ボン研究連絡センター）および齋藤成也教授（国立遺伝学研究所／三島）のイニシアチブのもと、日独コロキウム「進化ゲノム学」が開催されました。その結果、ライフサイエンスを中心として、日本のポスドクの若手研究者がデュッセルドルフに滞在することが増加しました。

また、専門雑誌「*Genome Biology and Evolution*」(gbe.oxfordjournals.org)を共同創刊するという大きな成果も上げました。2011年7月26日から30日、五條掘孝教授（国立遺伝学研究所／三島）の主催のもと、分子生物進化学会（SMBE）の年次総会が京都で開催される予定になっています。

ハインリッヒ・ハイネ大学の製薬技術および生物薬剤学研究所は固体調剤形態および製薬製品の矯味剤の分野では世界有数の研究機関です。第一三共（平塚市）、塩野義製薬（大阪市）など日本企業との協力の基、共同研究やポスドクのデュッセルドルフ派遣などを実現しています。主要研究の一つに「電子舌」の研究があります。ここでは、日本企業のインセント社（厚木市）などの製品が使用され、テストされています。

研究リーダー：ヨーク・ブライトクロイツ教授およびペーター・クライネブッデ教授。



電子舌

また、ハインリッヒ・ハイネ大学の数学研究所はゲオルグ・ヴァイス教授（1995年 - 2010年：東京大学）のイニシアチブのもと、

利根川吉廣教授（北海道大学）、俣野博教授（東京大学）、木村正人教授（九州大学）、山田澄生教授（東北大学）、小俣正朗教授（金沢大学）などの日本の研究パートナーと共に、多数のプロジェクトを立ち上げました。最も有名なものが、「大規模相互作用系の確率解析」です（プロジェクトリーダー：舟木直久教授、東京大学、2006年 - 2010年）。

また、「偏微分方程式」および東京大学にての日本数学会 2009年度年会など、幾つもの大規模な会議を共同企画しています。

現代日本研究科

ハインリッヒ・ハイネ大学の現代日本研究所は、この種の研究所としては、ドイツ最大規模を誇っています（学生数：約500人）。デュッセルドルフに息づく大きな日本人コミュニティをその研究活動および教育に応用できるという大きなメリットがあります。同研究所の近代的方針により、インターおよびトランスカルチュラルリティ、ジェンダ、グローバル化、消費社会、企業倫理、高齢化研究およびポップカルチャーなどを重点テーマとして取り扱っています。マンガおよびアニメなどの日本のポップカルチャーはデュッセルドルフでも大人気であり、日本語と日本文化を深く知りたいという動機付けとなっています。

現在、慶応義塾大学、青山学院大学、また沖縄、千葉、大阪、埼玉、横浜および金沢の大学とも学生交換協定を締結し、活発な学生の交流が行われています。

リーダー：前みちこ教授、島田信吾教授、アネット・シャート＝ザイフェルト教授

Heinrich-Heine-University Düsseldorf
www.hhu.de/home/en/home.html
International Office
www.hhu.de/home/en/international.html

問い合わせ
留学生の方へ: studierendenservice@uni-duesseldorf.de
研究者の方へ: The [International Welcome Center](#)
Universitätsstrasse 1, 40225 Düsseldorf, Germany



プロジェクト コーディネーション
NETWORK FOR SCIENCE
Sabine Ganter-Richter
www.network-for-science.net